

## 講演

### 経済価値ベースの資本規制の導入をめぐる課題 ー産官学の交流の場で考えるー

(2019年度JARIP研究発表大会パネルディスカッション)

東京経済大学 米山高生  
キャピタス・コンサルティング 森本祐司  
金融庁 白藤文祐  
明治大学 松山直樹  
京都大学 河合美宏

本稿は、2019年11月9日に慶應義塾大学矢上キャンパスで行われた日本保険・年金リスク学会（JARIP）研究発表大会におけるパネルディスカッションの講演録です。

#### **1. はじめに（総合司会：米山 高生）**

米山 本日は、たくさんの方にご参集いただきまして、まことにありがとうございます。私は、会長をさせていただいております、東京経済大学の米山と申します。例年ですと会長講演ということですが、今年は、ちょうど金融庁で、「経済価値ベースのソルベンシー規制等の導入に関する有識者会議」が開催されております。これが、保険会社にとってだけではなくて、金融全体にとっても大事なものだと思っておりますので、学会の持っている産官学の交流の場で共通認識を深めていただきたいと思いますと思ひまして、パネル報告に代えさせていただきました。

本日は、それぞれのパネリストの方に、短い報告を頂きます。最初に森本祐司氏からは、経済価値ベースのソルベンシー規制の我が国におけるこれまでの流れを紹介いただき、今、なぜこのテーマに真剣に取り組まなければならないのか、歴史的な文脈から明らかにしていただきたいと思います。次に白藤文祐氏には、保険監督の立場からの問題意識を述べていただきます。3番目に、今回の議論の中核である第1の柱で重要となる論点について、松山直樹氏に説明していただきたいと思います。そして、最後に河合美宏氏より、規制の導入に伴って生じる諸課題を中心に、お話ししていただきたいと思いますと思っております。

それぞれ10分以内で報告をお願いしております、残りの時間に関しては、パネリスト間の議論に充てさせていただきますと思ひます。保険業界にとって、また、金融全般にとってもホットであり、かつ重要な問題なので、フロアの皆様方からコメントや質問も多数あるかと思ひますが、時間の関係で、フロアからの直接のコメントは、今回はお受けしないことにしております。ただ、質問やご意見がございますでしょうから、それに対しては、スクリーンに掲示されたアドレスに出していただければ、パブコメのような形で、まとめて機関誌なりウェブなりでお答えさせていただきますと思ひますので、よろしく願ひいたします。

パネルを始めるに当たって、今般の経済価値ベースのソルベンシー規制等に関する有識